



長崎県大村市

票育事業の つくりかた

2018年、3期目となる中高生向けの選挙啓発事業「票育事業」を行いました。大村市選挙管理委員会とNPO法人との連携をはじめ、県内の大学生や大学講師をも参加して実施した選挙啓発事業の新たな方法論についてお伝えできればと思います。

(NPO法人僕らの一歩が日本を変える。理事/大村市票育事業責任者 今井郁弥)



票育とは

「票育」とは、NPO法人僕らの一歩が日本を変える。(以下ぼくいち)が開発した、新しい政治教育モデルのこと。選挙管理委員会が授業を実施したり、委託した団体が授業を代理で行う一般的な出前授業とは異なり、大学生を中心にした地元の若者(※「地元」とは授業を行う対象校のある自治体を指しますが、大学の有無などによっては授業対象校を含む都道府県にまで広げて募集します)が授業を担当します。

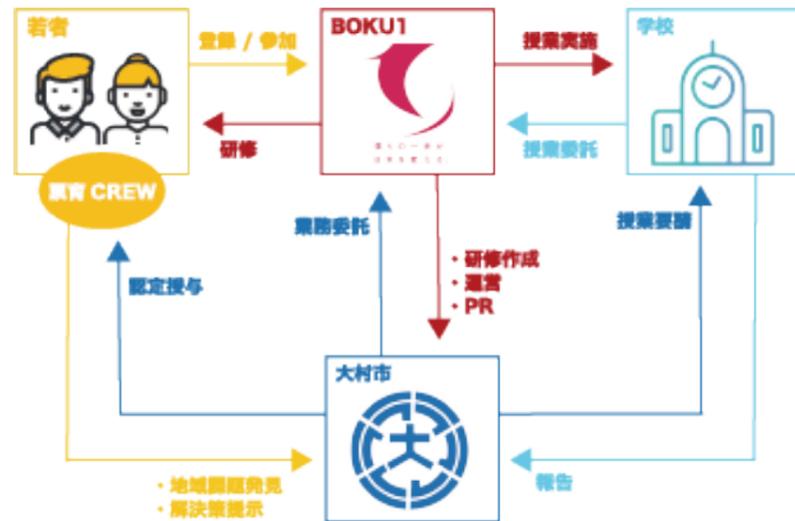
本事業では、大村市選挙管理委員会とぼくいち主導のもと、意欲ある長崎県内の大学生を授業の担い手「票育CREW」として認定。大村市で活躍する起業家の方々からのヒアリングや市長とのディスカッションなどの研修を通じて地元を改めて知ると同時に、その過程で発見したまちが抱える課題やその解決策を授業の形に落とし込み、地元の中学校や高校に届けました。授業を受ける中高生は地元の先輩のようなお兄さん・お姉さんたちが授業を担当することで授業を受けるストレスが軽減されると同時に、リアルな課題お



よび解決策の提示や中高生の流行りも考えたストーリー展開によって楽しく授業を受けることが可能になります。また、授業を担当する地元の大学生も、改めて地元について理解を深めることでこれからのまちの担い手として育てていく、というモデルになっています。

本事業の建て付け

本事業は前述のぼくいちと提携した、今期で3期目となる長崎県大村市独自の選挙啓発事業になります。初年度からぼくいちが開発したフォーマットに則って進めており、今期は前年度から参加している長崎県立大学、長崎国際大学の学生に加え、初めて長崎大学の学生も2名加わり、総勢16名の学生が事業の担い手である票育CREWとなって地元地域の課題発見のため研修を受ける運びとなりました。事業の全体感は以下の図のとおりで、大村市選挙管理委員会からぼくいちに授業実施と研修実施を委託。大村市は全体監督およびCREWの募集や授業対象校となる学校への声かけを担当しました。また、前年度からご協力いただいている長崎



県立大学、長崎国際大学のそれぞれの講師の方にも、CREWのマネジメントや授業作成のお手伝いで多大なご協力をいただきながら進めていきました。

本事業の実施スケジュール

本事業は大きく以下の流れで行われました。詳細につきましては次の章に記載しております。

-
- 4/29 事業開始前ミーティング
- 8/11 票育 CREW 認定式/キックオフミーティング
- 8/14 第1回オンラインミーティング
- 9/8 民間ヒアリング研修
- 9/22 第2回オンラインミーティング
- 9/29 政策ブラッシュアップ研修(市長室訪問)
- 10/6 第3回オンラインミーティング
- 10/13 授業作成研修
- 11/1 第1回授業
- 12/11 第2回授業
- 12/18 第3回授業
-

授業までの具体的な流れ

4月中旬、大村市選挙管理委員会、ぼくいち、長崎県立大学講師、前年度CREW数名で前年度の振り返りと今年度事業のキックオフを兼ねてのミーティングを行いました。特に、CREWには薬学部の学生や教職を履修している学生が多くおり大学のスケジュールが事業の予定に影響を与える可能性が高いため、今年度も継続して務めるCREWに大学のスケジュールを聞きながら、その場で暫定の事業スケジュールを確定させました。ここで顔を合わせて意思決定できたことは、研修でお呼びする市長や起業家のみならず



事業開始前ミーティング



票育 CREW 認定式



市長との政策ディスカッション



地元起業家からの講義 & 議論



授業作成研修

して余裕をもった調整ができる状態をつくることにつながると同時に、8月のCREW認定式までの運営側の温度感を高めるという意味でも大変、有意義でした。

事業開始前ミーティング後から票育CREW認定式前までは、大村市選挙管理委員会主導のもと、前年度にご参加いただいた長崎県立大学、長崎国際大学の講師のゼミ生にお声がけいただくようお願いしたり、新規で長崎大学に声かけを行うなどしてCREWの募集を行い、8月の票育CREW認定式を迎えました。

認定式では、選管委員長から票育CREWとして活動する認定書の授与を行ったあと、早速、ぼくいち主導のもと、キックオフミーティングを行い、新しくCREWとなった学生に対して本事業の取り組みや進め方、取り組むテーマについての説明を行いました(前年度までは取り組むテーマをCREWに考えてもらう形をとっておりましたが、今年は運営をスムーズにするため、あらかじめ観光・福祉・まちづくりの3つに絞ることにいたしました)。その後、研修の第1ステップとして、大村市についてのイメージや魅力をグループで考えるワークを行い、CREWとしての初日の活動を終了しました。

認定式を終えて間もない8月中旬、

オンライン通話サービスを通じて、3つのテーマに関する市の現状や魅力、課題について、調べたことや知っていることを共有しあう第1回オンラインミーティングを実施しました。そこで、自分が3つのテーマのうちどれに取り組みたいか、次回の研修で地元の課題に取り組む起業家にどのような質問をしたいか、などを議論し、ミーティングを終えました。

そして9月上旬。民間ヒアリング研修として観光・まちづくり・福祉の3分野から実際に大村市で働く起業家の方々を講師としてお招きし、お話を賜りました。それぞれの講師からのお話の後はCREWから用意してきた質問や話を聞いて掘り下げたいと思った点を積極的に講師の方に投げかけると同時に、講義と議論で得た気づきをワークシートにまとめてもらいました。最初は緊張していたCREWでしたが、徐々に積極的な姿勢が見られ、20分ずつ用意していた質疑応答やディスカッションの時間が足りなくなるほどの盛り上がりを見せてくれました。その後、得た気づきや課題をもとにした大村市活性化のための各テーマごとの政策案の検討を宿題として提示し研修を終えました。

9月下旬。政策案作成の進捗の確認のため、第2回オンラインミーティン



プレゼンテーションする候補者 CREW



ファシリテーターを務める CREW

グを行いました。「大村市をギネスのまちにする」「まちや商店街でアニメやドラマのロケを実施し、聖地巡りツアーを開催する」「若者が集まれる場を作る」「中高生がより福祉を身近に感じ、将来の選択肢として選べるよう職業体験やインターンシップを行う」など様々な視点から出されたアイデアを、CREWがお互いにフィードバックし合い、今回の市長とのディスカッションまでにそれぞれの政策案をどのようにブラッシュアップすれば良いか気づきを得て、終了しました。

1週間が経ち、ブラッシュアップした政策を市長に提案する政策ブラッシュアップ研修(市長室訪問)のときがやってきました。初めの20分間は市長から大村市のビジョン・取り組み、九州新幹線や新たに建設される図書館など大村の市政に関わる重要なポイントについてお話をいただき、その後、各自が考えてきた政策案のプレゼンテーションに移りました。参加したCREW全員が市長に対し緊張しながら全力で提案を行った結果、市長からはすべての案にお褒めの言葉をいただくことができ、加えて福祉であれば地域包括ケアシステムの話をいただくなど、アイデアをより良くする視点をご教示いただきました。市長とのディスカッションを終えた後は、各テーマに分かれてどの案で授業を作成するか議論すると同時に、今回の授業作成研修に向け、過去の授業の動画を全員で確認しながら具体的な授業イメージを共有しました。10月上旬。それぞれのテーマに分かれ、絞った政策案を起点に候補者がどんなストーリーで語ると伝わるか、どんな見せ方をすると面白いのか、を考え

臨んだ第3回オンラインミーティング。まず、作成してきてもらったスライドの構成(文章で書かれたスライドの流れ)を共有するところからスタート。プレゼンを聞いた上で、他テーマを担当するCREWからフィードバックをもらい、「いかにして中高生から共感を得られるか」を念頭に置きながら議論を行いました。

それから1週間後。授業前最後の研修である授業作成研修を行いました。改善したスライドの構成をもとに、今回は投影資料と台本を事前に作成し持参のうえ、その場で発表してもらいました。授業のクオリティに大きく関わるところでもあるため、大村市選挙管理委員会、ばくいち、サポートいただいている大学講師の先生方、他テーマ担当の票育CREW全員で「本当にそれで生徒に伝わるのか」「本当にその見せ方を生徒は面白いと感じてくれるのか」の2点をメインに真剣なフィードバックを行いました。その後は各テーマに分かれてスライドの修正を行い、授業作成当日までオンラインではばくいち、実地では大学講師の先生方がスライドとプレゼンテーションの修正作業のアドバイスをし、無事、3テーマの候補者のプレゼンテーション資料を完成させました。

授業の流れとポイント

本年度は3校の中高で授業を実施。「O村市長選」と題し、架空のまち「O村市」の市長を選出するという設定としました。これまでの集大成として、司会、候補者、議論のファシリテーターの3役すべてをCREWだけで担当すると同時に、今年からの新たな試みとして、3

回すべてで司会、候補者、ファシリテーターを入れ替える形で臨みました。授業の流れは以下のとおりです。

-
- 0:00-0:05 挨拶 / 票育の説明
- 0:05-0:10 アイスブレイク
- 0:10-0:15 導入説明
- 0:15-0:20 候補者演説1(概要)
- 0:20-0:25 シンキングタイム1
- 0:25-0:40 候補者演説2(詳細)
- 0:40-0:50 質問集め
- 0:50-1:00 休憩
- 1:00-1:05 質問回答
- 1:05-1:15 シンキングタイム2
- 1:15-1:30 投票
- 1:30-1:35 集計
- 1:35-1:40 開票 / まとめ

概ね一般的な出前授業と同様の流れかと思しますので詳細は割愛しますが、ポイントとしては以下を重視して、ばくいち主導のもと設計を行いました。
①序盤のアイスブレイクコンテンツによって、生徒のプレッシャーを解き、話しやすい環境をつくること
②候補者演説を概要と詳細の2回に分けて行うことで、概要を聞いたときには良いと思った候補者の案が詳細を聞くと大きなデメリットがあることに気づくなど、見た目や上辺の良い候補者・アイデアに飛びつくのではなく、情報を精査し深く考える必要性を感じてもらうこと



「観光」をテーマにした候補者スライド

③生徒の輪に入って議論を促進する
ファシリテーターが生徒の気づいていない視点を提示し、考えを深めるお手伝いをする
④良い質問を持った生徒にはその質問を質問集めタイムの際に全体に共有してもらい、生徒同士で視点を共有し合うようにすること

候補者演説内容の詳細

前述のとおり、観光、福祉、まちづくりの3つの切り口から候補者が演説を行いました。
まず観光から地域活性を考える候補者は、大村市に代表的な観光地がないことを課題として取り上げ、日本最先端のまちO村市を目指し「O村湾を活用した海上都市の建設」をmanifestoに掲げました。O村市の1年間の観光客数は長崎市や佐世保市と比較すると非常に少ないこと、またその観光客数のうちたった15%しかO村市に宿泊していないという数値データをもとに、観光客数と宿泊客数を増やすためにO村湾上に複合施設やホテル、会場アスレチックなどが楽しめる海上都市を建設することを提案しました。また、一度だけではなく何度も訪れてもらえるよう、四季ごとのイベントを開催するなど工夫も凝らし、最終的には現状15%しかいない宿泊客を85%にまで増やすという壮大な目標を発表し、演説を終えました。



「福祉」をテーマにした候補者スライド

他方、福祉をテーマとする候補者は「100年先も住み良いまちO村医学部大作戦」と称し、市内に実際にある大学に医学部を導入することをmanifestoとして掲げました。日本全体で医師の数が主要6カ国のうち最も少ないこと、長崎県内でも医師が約230人ほど不足していること、市外への若者の人口流出が増えていることを現状の課題として提示すると同時に、O村市に医学部をつくるメリットとして、市内に医療センターがあるため実践的な医療を学ぶことができ質の高い教育を提供できること、アクセスが良いため人が集まりやすいことを挙げました。医学部を設立することで雇用増加、消費拡大、税収増加、医療の質向上を期待できるだけでなく、長崎県内の学生に向けた入試枠を確保すること、卒業後に長崎県内で就職する学生は学費免除とすることを具体的な政策として盛り込み、演説を終えました。

最後、まちづくりからO村市の活性化を目標む候補者は、市民がO村市に満足できていないという現状を提示し、「歴史で地域活性化」と「定住しなくなる施設・住宅地の整備」をmanifestoとし、より活気があり住みやすいまちにしていくことをまちの将来像に掲げました。歴史による地域活性化として、O村市の歴史を題材としたドラマの作成や観光地の整備を行い、市民が歴史を通して郷土愛を深めていける



「まちづくり」をテーマにした候補者スライド

まちづくりを提案すると同時に、映画館やショッピングモールといった娯楽施設、スーパーマーケットなどの日々の生活が便利になる施設、若者が気軽にO村市に住めるようになるためのシェアハウスといった施設をつくることを掲げました。これらの政策により、O村市に長期的に住む人の確保と市外からの人の流入を促進していくことを期待できると説明をして、演説を終えました。

政策案の実現可能性など改善の余地はまだあるものの、定量的なデータの使用や大学生目線のユーモアある工夫が随所に見られました。また、生徒の授業時の反応を見ながら次回授業までに内容を変更したり、候補者のリアリティを出すため自主的にタスキを制作するなど、回を重ねるごとに授業の完成度が高まってきました。実際、授業後のアンケートでも、満足度は3校で平均4.4/5(n=426)を記録するなど、生徒からも一定の評価を得られたものと捉えています。

今後の展望

大村市選挙管理委員会としては、自ら考え、自ら行動できる主体性のある若者を育むことが市の将来の担い手を育むことにもつながって行くものと考えています。そのため、今後も引き続き、授業を担う大学生の育成と継続的な実施体制の確保を図っていきたいと考えています。